

第5章 都市交通マスタープランの目標達成のために必要となる施策群

2030年を目標年次とする都市交通マスタープランの効果・課題を踏まえ、「環境」「振興」「安心」の目標に向けた効果をより高めるために、以下の5つの分野でそれぞれの施策を展開し、各分野が連携することによる総合的な効果発揮を促していく。

以上を踏まえ、将来都市交通ネットワーク計画とこれに合わせて実施する施策群を含めて、沖縄本島中南部都市圏における将来都市交通マスタープランとする。

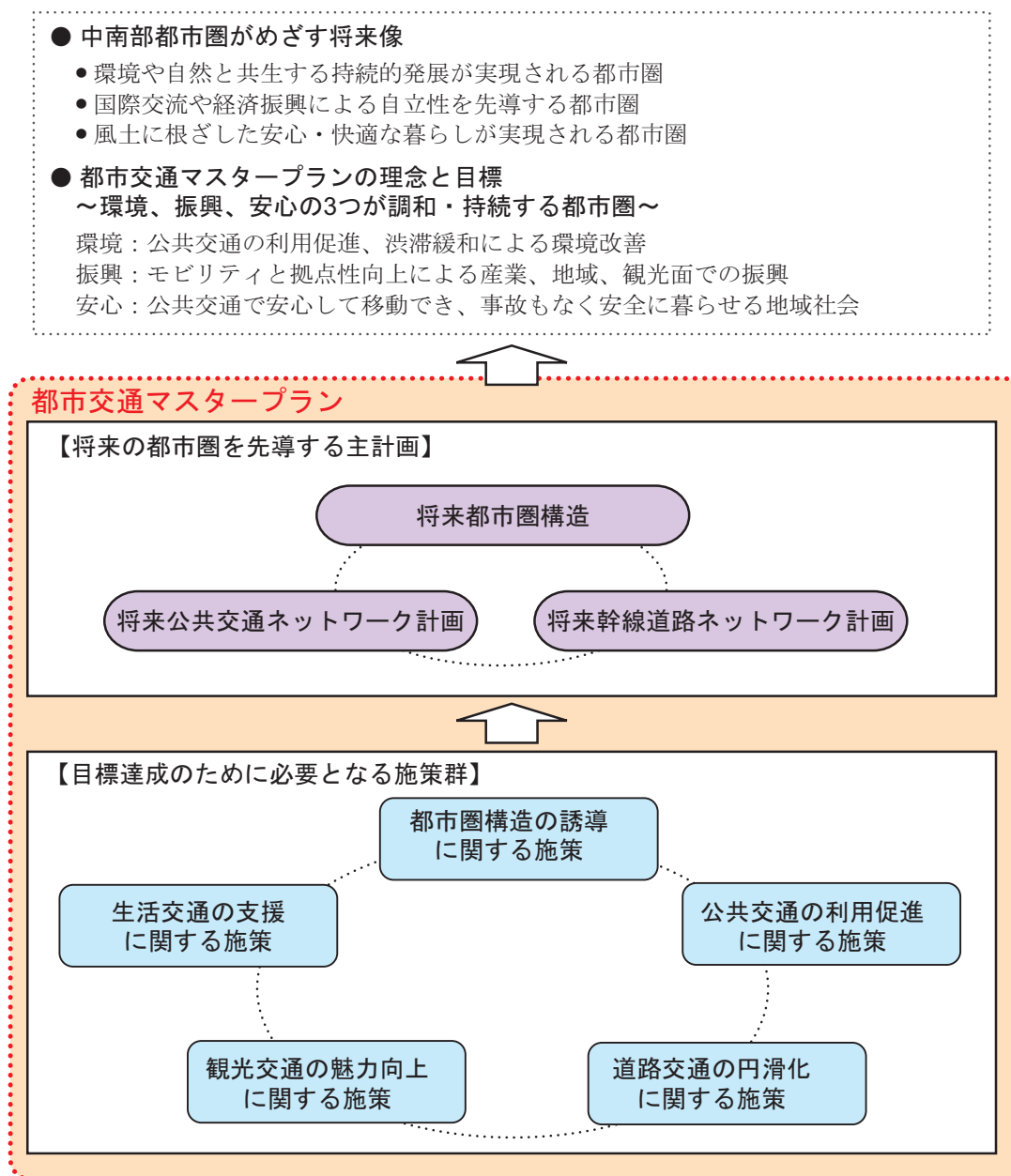


図 5-1 目標達成のために必要となる施策メニュー

5-1-1 都市圏構造の誘導に関する施策

環境、振興、安心の目標を達成するためには、将来の公共交通ネットワークや幹線道路ネットワークの整備と併せた公共交通一体型の地域整備を推進することが欠かせない。特に、更なる公共交通利用の促進や都市圏の振興を図るためには、都市圏整備を戦略的且つ一体的に誘導し、環境、振興面での効果を一層高める必要がある。

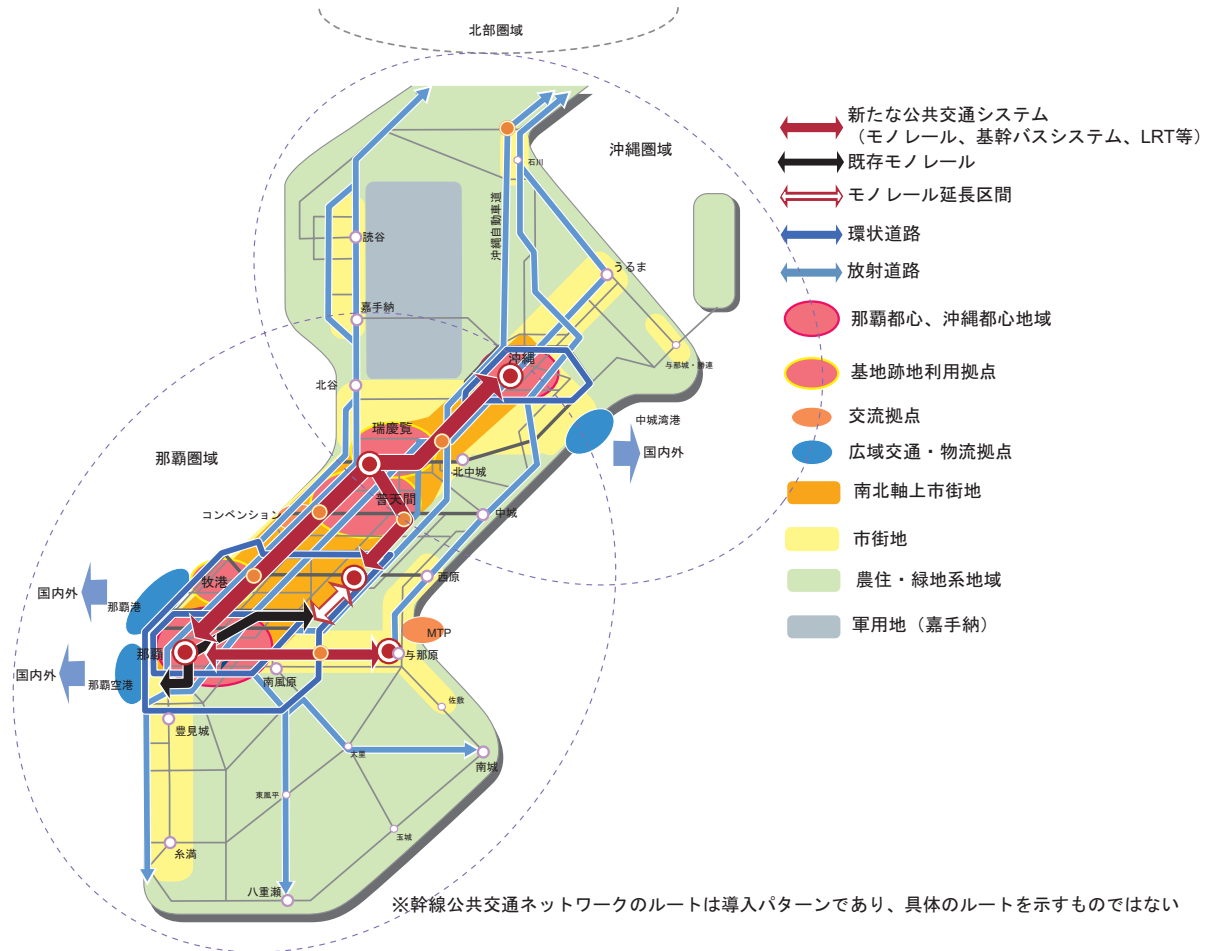
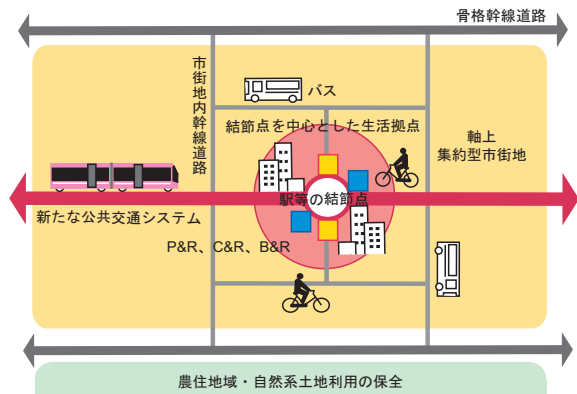


図 5-2 都市圏構造を誘導する総合交通体系

◆新たな公共交通システム導入と一体的な集約型市街地誘導の強化

南北都市圏軸における新たな公共交通システムの一層の利用促進を図るため以下の施策を展開する。

- 駅などの結節点を中心としたバスや二輪車など地域交通システムの確立
- 結節点周辺の拠点形成や周辺土地利用高度化など、公共交通システムと一体的な集約型市街地を土地利用面から強力に誘導



【集約型市街地と新たな公共交通システムのイメージ】

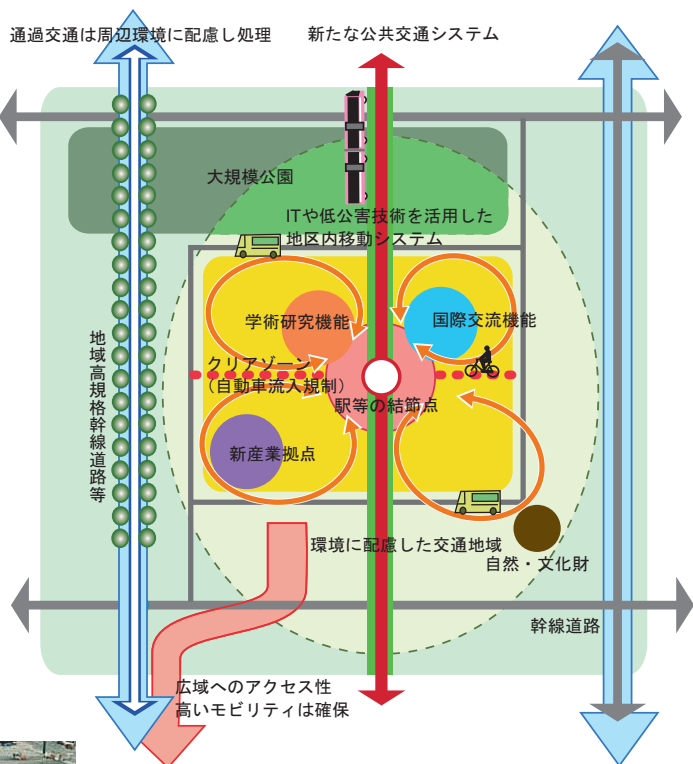
◆都心交通システムの導入による都市拠点の魅力強化

基地跡地利用拠点は、高次都市機能や新たな産業機能が集積する多機能交流拠点として、また次世代に向け環境に配慮した地域形成が期待されているため、跡地利用の促進の観点も踏まえ以下の施策を展開する。

- 基地跡地利用拠点の形成を誘導するため、新たな公共交通システムの高いモビリティを確保するための専用走行空間を戦略的に確保
- ITや低公害技術を活用し、自動車流入を抑制するクリアゾーンの導入など環境重視型の交通システムを誘導
- 跡地利用地域の景観との調和を図るため、沿道景観配慮型の道路網計画等を進め、振興と環境が融和した街づくりを誘導



【環境重視型交通システムのイメージ】

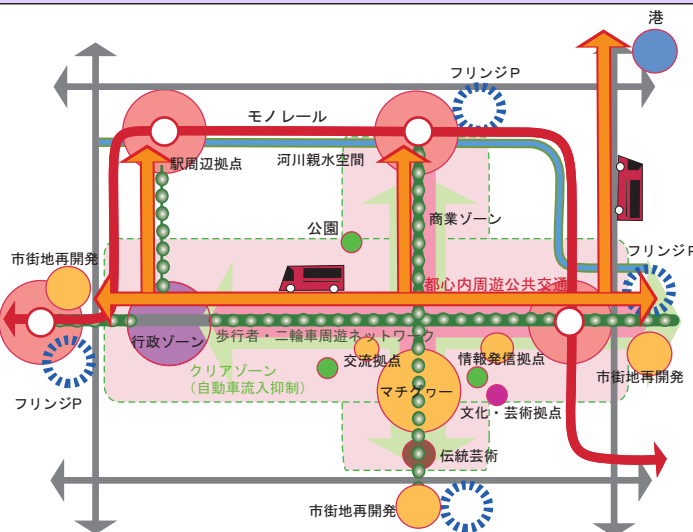


新たな公共交通システムの専用空間の事例
出典：国土交通省

◆都心交通システムの導入による都市拠点の魅力強化

那覇市や沖縄市の都心地域は、車がなくても快適、安心して移動でき、賑わいのある都市拠点づくりに向け、以下の施策を展開する。

- 都心地域内の周遊型公共交通システムの導入
- 都心部における歩行者・二輪車系のグリーンネットワークの形成
- 都心クリアゾーンやフリンジ駐車場の配置



【都市拠点における交通システムのイメージ】

5-1-2 公共交通の利用促進に関する施策

公共交通のより一層の利用促進を図るためには、モノレールや新たな公共交通システムを軸としながら、公共交通システム総体としての利便性を更に高め、確実にするための施策を展開することが欠かせない。

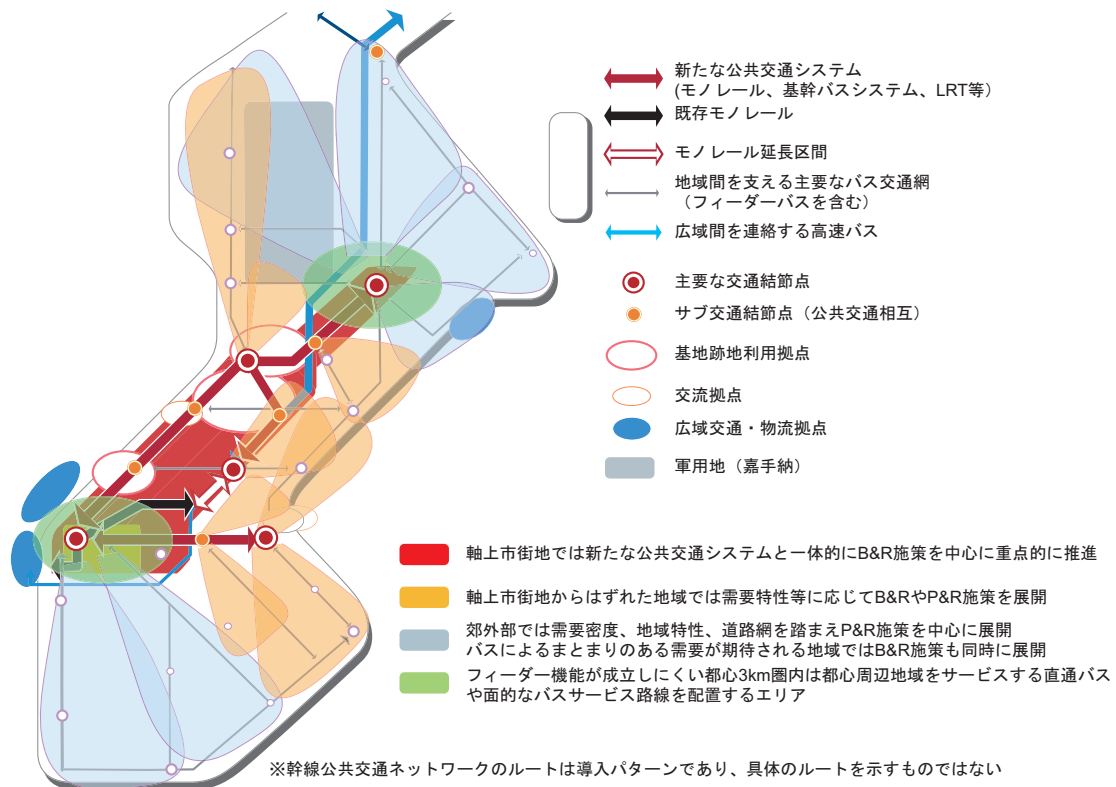
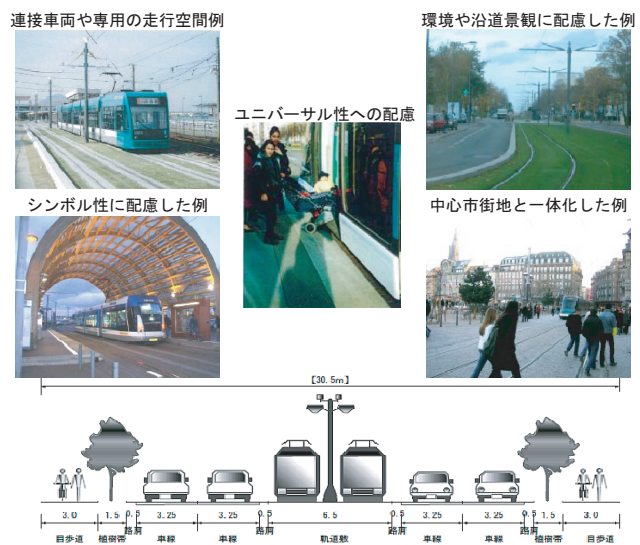


図 5-3 公共交通の利用促進に向けた公共交通体系

◆より魅力の高い新たな公共交通システムの導入

新たな公共交通システムは、長期的な都市整備の誘導や街の活性化といった観点
は勿論、大量輸送性、定時速達性、ユニ
バーサル性、環境面やコスト面、さら
には乗り物としての魅力を兼ね備えるた
めに、システムの高度化に向けた施策展
開が求められる。

- 多様な輸送単位・走行路、定時・速達性の向上施策
- 乗り易さ、分かり易さなどによる利用者利便やバリアフリー化の追求
- 安全・快適で美しいまちの構成要素としての機能充実に向けたデザイン、シンボル性及び環境、景観への対応



【路面への新たな公共交通システム (LRTの場合) の導入例】

出典：国土交通省

◆公共交通全体をシームレスに利用可能とするための結節機能の強化

都市拠点や新たな公共交通システムの結節点では、ハード・ソフトの両面から多様な交通モード相互の乗り継ぎ利便性や、人々の集散を推進する交通結節機能を配置する。

●公共交通相互の結節

モノレールと高速バス、新たな公共交通システムとフィーダーバス路線など、公共交通相互のシームレスな乗継を図る結節点整備を展開

●自動車交通との連携

特に郊外部では道路網によるアクセス性に優れた背後圏を有する地域では、P&R機能を強化することにより自動車交通の適正化を推進

●自転車・歩行者交通との連携

都心部や郊外部では土地利用や地形条件を考慮した自転車結節機能を導入

モノレールと高速バスの結節イメージ 出典：南部国道事務所



海外のLRTとバス、P&Rが平面結節している例 出典：国土交通省



【新たな公共交通システムの郊外交通結節点イメージ】

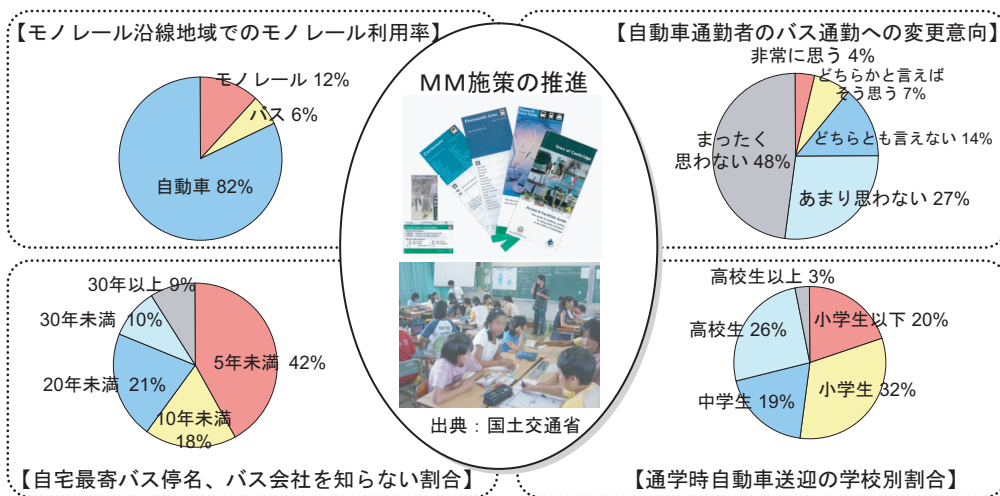
◆公共交通に対する利用意識高揚策の推進

●情報技術や料金施策等を活用した利用促進策の展開

乗継情報などの案内施策の充実、ICカードや乗継割引などの施策展開、バリアフリー施策展開など、公共交通の利便性を高めるための各種利用促進策についても同時に展開

●住民・企業等に対する公共交通利用啓発施策の展開

より一層の公共交通利用率を高めるため、住民等に対するMM*施策を推進する。その際は、現状の課題に加え、既にモノレール沿線地域などで公共交通利用が徐々に定着しつつある実態や効果など、地域の頑張り住民や企業の交通行動意識の変化の重要性を提示



*MM (Mobility Management)

渋滞や環境等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしく』使う方向へと自発的に転換することを促すコミュニケーションを中心とした取り組み

5-1-3 道路交通の円滑化に関する施策

道路交通の円滑化をより一層推進することは、都市圏内の移動性を飛躍的に高めることによる都市圏の振興に寄与するばかりでなく、交通混雑の緩和による都市の環境面や地区内通過交通の削減による交通事故軽減などの安全面においても欠かせない。



図 5-4 道路交通を円滑にする放射環状道路ネットワーク体系

◆自動車交通需要の低減に向けた TDM 施策の展開

幹線道路網整備に加え、長期的にも都心部へ集中する自動車交通需要の低減を図るため、下記のTDM施策の展開を検討する

●時差出勤施策の展開

朝ピーク時に集中する通勤自動車の分散化策として、時差出勤施策を都心事業所や従業者との協働で推進

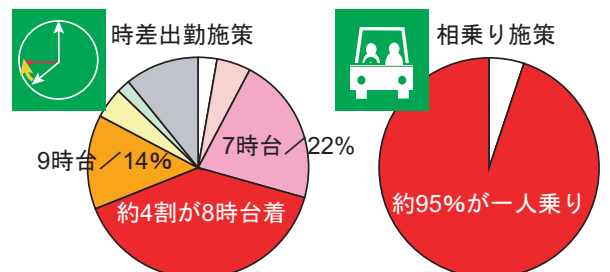
●相乗り施策の展開

朝ピーク時の一人自動車を対象にした相乗り施策について、事業者や従業者も交え具体方策を検討し展開

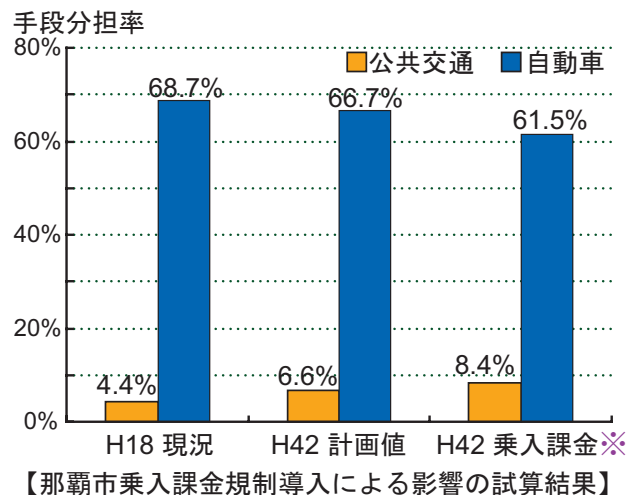
●乗り入れ規制等の検討

道路交通の円滑化や公共交通利用促進の観点で、乗り入れ規制なども効果は期待されるが、施策の実効性や振興の側面など総合的観点でその可能性を検討

※H42乗入課金ケースは、那覇環状道路（那覇糸満線）内を発地又は着地とする自動車交通に10分相当の料金を新たに課金した場合の試算値



【那覇市着自動車の時間帯構成比・1人乗り構成比】



◆街づくりや公共交通を含む道路交通円滑化に向けた道路空間の有効活用

道路空間を有効活用した円滑化方策等も、幹線道路整備に併せて推進する。

- 交差点空間の有効活用策の推進
幹線道路の走行性を確保するために、ボトルネック交差点の信号処理や交差点構造の改良・見直し等の施策を推進
- 自動車交通の適正な経路誘導
需要分散や交通の平準化を図るために道路情報提供や標識・案内板による誘導を推進
- 公共交通のための有効活用策の推進
路面公共交通の定時速達性を確保するため、既存道路空間内に公共交通専用空間を確保するなどし、道路交通の円滑化（自動車交通からの転換）を推進
- 人・街のための有効活用策の推進
都心部等では道路空間を有効活用した歩行者、自転車の快適な空間や街の賑わい空間を創出

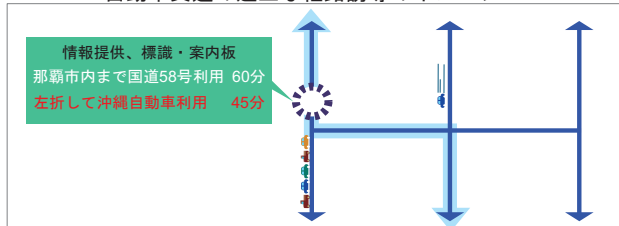
交差点空間の有効活用策の例



公共交通の有効活用策の例



自動車交通の適正な経路誘導のイメージ



地域活性化のための有効活用策の例



【道路空間の有効活用イメージ】

出典：南部国道事務所、国土交通省

◆安心・安全な地域環境の形成

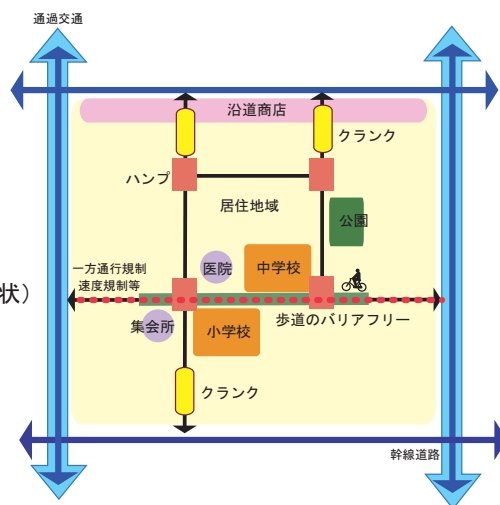
居住地域では、街区を形成する道路整備や地区内道路整備、また交通運用の工夫等による子どもからお年寄りまでが安心、安全に暮らせる街づくりを推進する。

- 幹線道路整備による地区内通過交通の秩序化
地区内道路通過交通による交通事故の削減を推進し、安心、安全な街づくりを推進
- 地域特性を踏まえた地区内道路空間の使い方の工夫
地区内道路における通学路などでは、歩行者や二輪車の安全性を重視した道路構造、交通運用方策の導入を検討

ハンプ設置による施策例



通学路へ侵入する通過交通（現状）



【安心・安全な地区内道路のイメージ】

地区内道路線形を工夫した例



歩道バリアフリー化の例



出典：国土交通省